

子どもの詰め込みに NO!

<6 日間で集まった 120 人の声>

保育園を考える親の会

「子どもの詰め込みに NO という緊急アピール」賛同メッセージ集

待機児童対策のため保育園の数を増やすことを求めます。

<120 人のメッセージ・目次>

- ① 東京都の認可保育園保護者の声 (P2)
- ② 認証保育所の保護者の声 (P10)
- ③ 小学生以上の子どもを持つ都民の声(P11)
- ④ これから保育園を利用したい都民の声 (P15)
- ⑤ 将来、子どもを持ちたい若い都民の声(P16)
- ⑥ お子さんがない都民の声(P16)
- ⑦ 元都内の保育園保護者の声(P17)
- ⑧ 都外の認可園保護者の声(P17)
- ⑨ 都外に住む小学生以上のお子さんを持つ保護者の声(P20)
- ⑩ 都外に住むこれから保育園を利用する人の声(P21)
- ⑪ 将来子どもを持ちたいと考える都外の若者の声(P22)
- ⑫ 現在はお子さんがいらっしゃる方声(P22)



<120 人のメッセージが伝えること>

- A) 保育園保護者たちは面積基準の緩和に反対しています
→①②をご覧ください
- B) 待機児童保護者も詰め込まず保育園を増やすことを望んでいます
→②をご覧ください
- C) 小学生以上の子の親たちも詰め込みでなく保育園を増やしてほしいのです
→③⑦をご覧ください
- D) 詰め込み保育園が増えれば、都内外で少子化が加速するおそれがあります
→④⑤⑪をご覧ください
- E) 子どもがいない人も面積基準の緩和でなく保育園を増やすべきと言います
→⑥⑫をご覧ください
- F) 東京都が詰め込みを容認すれば影響は日本全国に及びます
→⑧⑨⑩をご覧ください

① 東京都の認可保育園保護者は、面積基準の緩和に反対しています

「戦後の混乱期にやむを得ず最低限で作られた最低基準をさらに改悪することは時代に逆行し、世界都市東京として恥ずかしいことです。子どもを安心して預けられない社会、子どもを産みにくい社会が加速します。子どもは荷物のように詰め込めるものではありません。保育園は、一人ひとりが人間として大切にされ、受容され、個性に合わせて育ち、育てられるための大切な空間です。子どもの視点で見たら、待機児童の解消策はもっと他に考えられるはずです。大人はそこに知恵を使う責任を担っています。最低基準の緩和に強く反対します」

「面積基準の緩和に反対いたします。育児休業中に見学した認証保育園はまさにすし詰めでした。7畳大の部屋で0~2歳児・6人を2人の大人（保育士）が過ごしていました。アパートの半地下で、場所がないのでおむつはカーテンレールにぶら下がっていました。ここに預けるくらいなら、月25万円以上になりますが、ベビーシッター利用で職場復帰しようかと真剣に考えました。すべての認証が「問題ない」などとはとても言えません。もちろん、待機児童の問題は深刻です。恵まれた環境に子どもを預けている認可園の親が「詰め込み反対」を唱えるのはわがままに映るかもしれません。

対案として考えていただきたいのは、認可保育園の保育料自己負担額を上げることです。もともと福祉目的だった保育園ですが、今は大半が就労支援になっています。低所得ではない家庭からもっと高い保育料を徴収し、認可園を増やすための財源に充てることはできないでしょうか。私は、今のように質の高い保育園を利用できるなら、今の倍、払っても惜しいと思いませんし、同じように考える親は他にもおられます。」

「現在2歳児クラス（14名）に子どもが在籍中。現在の教室が変わったときはその狭さに愕然。お昼寝の時間はお友達のお布団を踏まないと自分の場所にかれない。それで落ち着かないのか、現クラスになってから我が子のお昼寝の時間が1時間弱短くなってしまった。雨の日は廊下にはみ出して遊んでいる。上のクラスも定員増のため、ホールをつぶして教室にしたと聞いている。そのためホールを運動場として使えない不便さがあるそう。なお杉並区立保育園は各保育園で布団のサイズが異なる。それは、人数分のスペースを作るために布団を独自サイズで作っているから。」

「現在2歳児クラス（14名）に子どもが在籍中。現在の教室が変わったときはその狭さに愕然。お昼寝の時間はお友達のお布団を踏まないと自分の場所にかれない。それで落ち着かないのか、現クラスになってから我が子のお昼寝の時間が1時間弱短くなってしま

った。雨の日は廊下にはみ出して遊んでいる。上のクラスも定員増のため、ホールをつぶして教室にしたと聞いている。そのためホールを運動場として使えない不便さがあるそう。なお杉並区立保育園は各保育園で布団のサイズが異なる。それは、人数分のスペースを作るために布団を独自サイズで作っているから。」

「子どもが通っている保育園は狭く、ぎりぎりのスペースを保育士さんたちが頭を使ってうまく回してくれている状態。大人でも狭い場所に長時間いるとストレスがかかるのに、ましてや子どもなんて。これ以上詰め込まれると、事故や喧嘩がもっと増えるだろうし、保育の質も低下する。単に受け入れを増やすだけの安易なことはやめてほしい。」

「昨年 4 月になんとか当時 5 ヶ月の娘を認可保育園に入れることができましたが、そこに到るまで、約 20 の認可、認証、無認可の保育所の見学をしました。そこで見た認可園以外の”保育”の多くは、狭いスペースに乳幼児を詰め込み、走り回らせることも出来ず、お散歩と称して無理やりベビーカーに乗せて近くをぐるっと 1 周して終了、というようなものでした。こういった”保育”を見て愕然とし、「これは都に何とかしてもらわない」と思いました。今、使われていない小中学校の校舎などを再利用して、保育園を増やすわけには行かないのでしょうか？」

「公立認可保育園にお世話になっていますが、長女るとき 1 歳児クラスの定員は 10 人だったのに、次女るときは一気に 1.5 倍の 15 人になりました。同じ園の同じ部屋で見比べると、その変化がはっきりとわかります。まだ歩けない子から小走りする子までが窮屈な空間に詰め込まれて、長女るときよりも明らかに事故が発生する危険性が増したと感じます。また、クラス全体の雰囲気も騒々しく、落ち着かないものになりました。努力してくださっている先生方の負担が増えているのも気がかりです。待機児童を減らすために、単純な定員増しか方法はないのでしょうか。子供や先生方に我慢を強いて、子供を危険にさらす詰め込みには断固反対します。」

「子どもたちが健やかに育つためには、ゆとりのある環境が必要。施策を考える人たちはもし自分の子どもだったら、孫だったら、と想像して考えてみてください。お願いします。認可保育園を目の敵にしないで。質の高い保育をしてくれています。料金をもっと上げて、本当に困っている人にだけ格安の保育料にすれば良いのです。」

「緊急アピールに賛同します。子どもを認可園に預け、かつ現場の保育士でもあります。私は 20 数年現場にいますが、私たちの意見が求められての話し合いであるという認識は全く持っていません。現場とは全く関係のない所で話し合いが進められ、それを聞いて意見したり反対したりしている印象です。別次元の出来事のようにです。我が園も弾力化で定員より多くお子さんを預かっていますが、ここに更に人数が増えるな

んで想像できません。園庭が広ければ救いようがあるでしょうが実際はどここの園もそれが十分ではないのが現状です。

詰め込みのイメージは大人が毎日エコノミークラスの飛行機に長時間乗るようなものです。どんなに工夫しても快適に感じるのはほんの短い時間です。それを子どもにさせるのですから。わかって頂けるでしょうか？」

「今でさえクラス（学年）ごとに交代で園庭を使っているのに、これ以上人数が増えたら走り回る遊びは難しいでしょう。教室だってこれ以上人数が増えたら、お昼寝の布団も敷けなくなってしまう。先生だって、これ以上の人数を見るなら安全確保も難しそうです。

（ケンカも同時多発しますし子供はおとなしく座っていないから）

今の子供たち、大きくなったら税金も年金も払う一方で全部今の大人たち（もう少し年を取った私達）に使われてしまうのではないかと思っています。だから、せめて今、彼らにもっとお金を使ってもいい、今から大人たちに搾取され続けてはいけないと思うのです。」

「現在子どもを預けている私立認可園ではなるべく多くの職員で子どもを見られる様にと随分工夫していただいています。補助金も減り、かなりギリギリの様子です。現状では部屋が狭いという印象は持つものの、子ども達に十分目が行き届いていますが、このまま補助金が減り続けると職員も最低基準まで減り、詰め込みが行われると既に狭い部屋に更に子どもが増え、事故が起こって当然だろうとしか思えません。

大人なら危険で不快な環境から脱する術を持っています。しかし子どもは訴える事も逃げ出す事もできません。特に家計のために共働きしている家庭の子どもには選択の余地がありません。結局十分な収入が無いなら大切な子どもを危険にさらすしかないという状況になってしまいます。事故が起き、子どもが亡くなってからでは遅いんです。物ではないので代えはききません。どうか「詰め込み」を回避できますようお願いします。」

「初めて保育園を見学したとき、その狭さに驚きました。その環境で、先生方は、様々な工夫をして、事故なく、子どもたちが快適に過ごせ、豊かに成長できるように努力してくださっていると思います。保育のプロの方の声に真摯に耳を傾け、どうか、子どもたちにしわ寄せを押しつけるような結論を出さないでください。安心して子どもを預けられる環境をお願いします。」

「3人の子供がおり、現在も末の子が5歳児で認可私立園に通っております。3人ともゼロ歳児から未認可保育室を経て認可公私立園へ進み、保育室・園生活も15年目を迎えております。3人の子供を持つことが出来たのも、東京都のサポートの下満足できる保育レベルに安心して子供を預けられた為です。待機児を減らす為に、保育レベルを下げ、最低限守らなければならない安全性まで犠牲にする安易な考えに本当に失望するとともに憤りを覚えます。少子化で小中学校が閉校し学級数が減り空き教室が増えるこの時代に、なぜ

保育園だけが詰め込みを強いられるのでしょうか？なぜこの少子化の中、貴重な社会の宝であり未来の国を支えていく子供達にしわ寄せを求めるのでしょうか？もっと既存の施設を活用したり、正規保育士の育成や雇用を充実して失業時代の活力にしたり、創意工夫の政策を望みます。こんな安直な政策、施策を主張する知事や議員は2度と投票しません。」

「子供の詰め込み保育は当然に猛反対いたします。

詰め込みを行っている無認可の保育所をご覧になった事はあるのでしょうか。現在の認可保育所でさえ、目が行き届かない為に起こる、数には入らないが許したくないような小さな事故を見聞きします。過去の規制緩和以降、制限ぎりぎりに子供を受け入れることにより事故数が格段に増えていることは考慮されているのでしょうか。あえて劣悪ともいえるような環境を用意され育てられる子供達はどの様に育つのか、その現場を受け持つ先生方は保育に対しての志を保てるのか、とてもまともには考えられません。

行政が示すべき基準は、子供の安全、心身の健康や未来までをも見据えたもの、という軸をぶれさせず、実社会へ適応させるには、どの様にしたらよいかという事の為に会議し、知恵をお使い下さい。そして、東京都が他県、他都市の見本になります事を期待しております。ぜひとも、再考下さいますよう、切にお願い申し上げます。」

「ただでさえ、ここ数年来、保育人数の増加によって、子どもの荷物の保管場所も拡大し、子ども達は身を寄せ合うようにして遊んでいます。これ以上増えたら健やかな保育は難しいのではないのでしょうか。また、昨年&今年のようにインフルエンザや嘔吐下痢症が猛威を振るう際、子どもの密度が高い空間で、子ども達の健康を管理できるのかどうかも非常に不安です。病気の流行をあおっていくことになりかねません。人数の詰め込みよりも、小中校の空きスペースを何とかするなど、他の手立てを優先すべきだと考えます。」

「最低基準緩和（詰め込み）は最後の手段にしてほしいです。たしかに、待機児童問題は各自治体にとって焦眉の課題です。しかし、政策担当者でない私にすら、他にもやれることはあるはずにみえます。幼稚園の統廃合や、4～5歳分園を近隣小学校に新設、0～2歳児だけの認可園を設置できるようにする、高納税者世帯の保育料値上げによる財源確保で分園を作っていく。それぞれに制約があるから実行が難しいのだと思います。しかし、だからといって、物言わぬ子どもを詰め込むのが公益につながるのでしょうか。ただ安易だから詰め込むだけのようにみえます。

詰め込み保育園が多数派になれば、それをみて、親（多くは母親）が仕事をやめてしまうのではないのでしょうか。そしてそんな状況を知っているから、子どもを産みたくない人も減らない。結局、少子化を止められなかった時代に後戻りすると心配しています。待機児童解消が少子化につながるという皮肉な結果になってほしくないです。

どうか最低基準緩和をとめてください。全国の子ども・保護者が応援しています！」

「認証保育所で10年間何の問題も行っていない、と主張する山口洋氏、鈴木亘氏はじめ、詰め込みを推進する東京都は、園庭があるなし、一人あたり面積5平米以上、5平米未満～3・3平米以上、3・3平米未満～1・65平米以上、等の区分で、運動能力に差があるなし、発達障害やイジメの出現率に差がないのか、その他のトラブルの多寡などとの相関関係の有無、その後の小学校でのリカバリーの可否など、データ取って示して欲しい。緩和したい方にこそ、立証責任があるというのがアセスメントの基本では？子どもたちが言葉にできないのを良いことに、将来の日本人に禍根を残しかねない施策を真っ先に提案する人たちは、自分の営利目的しか頭にないのか？憤りと哀しみでいっぱいです。詰め込みはやれる施策をやりつくしてから考える最後の手段という文京区長を支持します」

「基準を緩和して大丈夫だという立証責任は東京都側（基準緩和側）にあるはず！具体的に朝から晩まで狭い部屋で過ごしてみると言いたい。病気は感染しやすくなる、ぶつかり等でケンカは多くなる。他の策を考えるのが子どもの利益を考えたら当然。緩和論者は、（未来の）主権者である子どもたち（それは私達世代を支えることになる）の未来にどれだけ真摯に責任を持つつもりなんだ！「問題ない」というあなたの首を絞めてやりたい。事故等で子どもを失った人たちの事件をどう考えているんだ。取り返しがつかないんだぞ！許し難い！！」

「都内の民間認可保育園で働きながら、二人の子どもを公立保育園に預けて子育てしています。先の待機児童解消に係る児童福祉審議会でも複数の委員から、面積基準緩和の前にやるべきことがあるという意見が挙がりましたが、今回の基準緩和は待機児童解消に逆効果となる危険性を孕んでいます。

子ども・子育て新システムの制度設計が山場を迎え、先行き不透明な制度改革の議論に多くの地方自治体の首長や政策担当者が不安を感じています。もちろん保育園に子どもを預けて働いている親にも不安が広がっています。

そんな逆風の最中に、自治体も働く親も反対であるにも関わらず、ひと握りの「声の大きな」待機児童の親のための基準緩和を実施することは、その場しのぎのクレーム対応と捉えられかねません。また、新システムの議論を含め、今まさに子ども・子育てに関わるすべての利害関係者をして子どもたちのよりよい未来のための同一の協議の場に立たせんとしているこのときに、国の大きなビジョンに反する場当たりの政策を東京都単独で実施することは国の公的責任の放棄にも捉えられかねません。そうした不安が折角の新システムに関する建設的な議論の成果を著しく損ねることを最も危惧しています。

以上、行政、保育園、親、すべての関係者の不安を助長する今回の保育所面積基準緩和に対して反対の意見をお送りします。」

「ただでさえ基準が低いのに、これ以上基準を低くして子ども達を守れるはずがない。石原は海外視察なるもので無駄金を使っているのだから、それを保育園の予算にまわせばいい

いだけのこと。海外視察の基準の方を下げろ。」

「在園児一人当たりの面積が減り、園児がこれ以上詰め込まれることは、園児にとって環境の悪化に他なりません。大人でも満員電車では乗客同士のトラブルになりますが、子供達は不満を上手に表現出来ないので、混雑した環境は園児同士のトラブルを引き起こしかねません。トラブルが増え、保育士への負担増になることは、保育士の成り手を減らすことにもつながります。多方面及び長期的視野での検討を切望します。」

「今の認可保育園の定員、体制ですでに飽和状態を感じています。保育の質の低下は防げなければなりません。よろしくをお願いします。」

「自分自身、3児（2歳、4歳、5歳）を認可保育園に預けている母親である。自分の職場は同じく認可保育園であり、看護師なので主に0歳児保育にあたっているが、その立場から述べたい。0歳児の特徴は睡眠、活動に個別性が高い所である。月齢の差でやれる事や睡眠パターンも違うため、数人は午前寝が必要で寝ていて、数人は遊んでいるという事も入園当初はめずらしくない。また家庭保育から初めての集団保育となるため、家庭での生活習慣の違いにより睡眠パターンを園生活に合わせていくにはやはり午前寝や昼食前、夕方の睡眠など個別にあった時間に睡眠をとらせている。そのため、複数の空間が必要になってくる。

また、初めての集団生活で体調をくずす子どもも多く、室内遊びも多くなってくる。だが0歳児も1年後にはほぼ実年齢2歳近くとなり、走る事もできる様になるとある程度の広さがないと危険である。子どもが室内遊びでも十分にエネルギーを発散できるスペースが確保される事は、必要である。」

「待機児童を少しでも、早急に減らすことは必要だと思いますが、既存の施設に詰め込むことはあまりにも危険です。事故やトラブルの元になると思います。待機児がいるのに定員割れしている園があるというミスマッチをまず解消してください！」

「私の娘は今私立の認可保育園の2歳クラスに在園していますが、雨の日などに部屋にいる様子を見ると、今の広さでもかなり密集した状態になっています。これ以上狭くしてしまうと、子どもたちの活動はかなり制限されますし、事故も起こりかねません。のびのびと過ごすことができない子どもたちは、身体的、精神的成長を阻害されることも起こりうると思います。子どもが日に10時間過ごす環境を守ってください。親としては、子どもの詰め込みははっきり「NO」です。」

「子ども達が、子どもとして、成長・発達していく為にある、基準をこれ以上引き下げないで下さい。待機時の解消の為にも、基準の引き下げではなく、公有地の活用や、大企業への応分の負担など、子どもへしわ寄せをするのではなく、大人達が知恵を使っていきま

しょう。」

「3人の子ども達が保育園にお世話になり、今も3番目の末っ子はお世話になっています。小規模園～大規模園まで、いろんな保育園を経験しました。子どもが育つのに適した面積や環境、関わる人の接し方は大事だと実感しています。ただ、施設・建物のハード面より、関わる保育士さんのソフト面が大事とも思ってきました。面積や環境の悪い部分も関わる保育士さん達のスキルや熱意で補える部分もある、と感じていたからです。でも、年々保育士さん達のスキルと余裕がなくなっている事も実感しています。そんな中、ハード面まで基準を緩和してしまうことには、保護者としては子ども達に代わって反対します。」

「待機児童問題を既存の保育園定数の増員（詰め込み）で解決するのでは、本当の意味での抜本的な解決になりません。認可園の増設をはじめ、国基準を最低まもりながら、多様な保育サービスを提供し、保護者に保育ニーズに応えてください。定員があまるぐらいの余裕こそ本当は欲しい！ 子どもを人間をまもる保育の実現をお願いします。」

「子どもは立派な社会の一員。可能性も感受性もいっぱい持っているエネルギーの塊。社会的にはとても弱い人間が、成長して社会を担うまでには、十分な愛情と安全が必要では？ 保育園の職員を1日でも体験したらいい。あなた方が自信を持って出来ると言えるなら、絶対に大丈夫！ のびのび育つ！ と保証してください。」

「待機児解消のために保育所に子どもを詰め込むなど、本末転倒もいいところです。断固反対します。現状の認可園の基準（面積・保育士の数）でも、必ずしも親は十分と思っているわけではなく、これならまあいいだろうというのが本音です。これ以上、基準を緩和し、保育環境を悪化させることには絶対に反対です。」

「乳児の成長は、週単位、日々違う事を忘れないで下さい。空間を狭くし、乳児の広がるうとする世界を狭めて欲しくありません。運営上問題がないと言う理由で待機児童解消に利用するのではなく、保護者が就労中、安心して我が子をお願いできる環境作りを手厚くして欲しいと切に願います。

面積基準を切り下げて喜ぶ保護者はおりません。

どうしてそういう発想になるのか、保護者の視点、これから日本を背負っていく子供の視点に全く配慮が感じられません。切り下げ案に反対します。」

「保護者がつつがなく働けるのは、「安心して子どもを託せる場所があるから」であり、単に「保育園に子どもを預けられるから」ではありません。

面積基準の切り下げによる保育環境や子どもの発達への影響について、より慎重な議論を

行っただうえで施行の検討をお願い致します。」

「子供のびのびと育つ環境を第一に考えてください。

その場しのぎの詰め込みではなく、本当に必要なことを考えて、実現してほしいです。

このままでは、不安と不信感で、東京での子育てが嫌になります。」

「子供は国の財産です。少子化を加速させるような取組みは避け、親が安心して預けられる制度づくりを希望します」

「国の最低基準や認証保育所の面積基準ですら、子どもには十分なスペースではないと思います。これ以上、詰め込みはやめてほしいです。

子どもへの出費は投資だと考えるべきだと思います。再検討されるよう要求します。」

「昨春、育休を切り上げ、9か月で娘を認可保育園に入園させました。都内の狭小保育園で、さらに詰め込まれ、本当に娘の成長が大丈夫か不安です。

待機児童が多数いることは問題ですが、せっかく入園できても、子どもがすごす環境が悪く、事故さえも起こりかねない環境であれば、親は安心して預け働くこともできません。

「子どもの詰め込みに NO という緊急アピール」に賛同します。」

「「緊急アピール」につきまして賛同の意をお伝えしたいと思いメールいたしました。「子どもに成り代わって、NO と言わなければなりません。」という文章を読んで涙が出そうな思いであります。まだ言葉も話せない娘（1歳半）ですが、お部屋でも外でも、広い場所に行くと、目を輝かせて、あちこち嬉しそうに探索し、たくさん歩き、広い場所に向かって走り出します。その姿が全てを物語っているようでありません。」

「緊急アピールに賛同します。これ以上の詰め込みだけは NG だと思うのですが、なぜこの策がなんどもなんども出てくるのか不思議なくらいです。

子供の詰め込みですが、かつて起きました某認可外保育園での園児死亡事故は、詰め込みも一因であると思われるのですが、「詰め込み」＝保育に支障なし、と皆様は思ってもらえるのでしょうか。質や安全等は二の次ということでしょうか。残念でなりません。

学童でさえ人数が増えたら二つのクラブに分ける時代。待機解消に詰め込みはやめてほしい。学童で大人数で怪我や事故が増えたという報道もあったはずです。小学校も 35 人になるのに保育園だけ緩和措置というのはいったいどうしてなのでしょう。うまくいえませんが詰め込みはやめてほしいです。」

② 認証保育所の保護者も“詰め込み”を求めています

「現在、文京区の認可認証保育園に子供を通わせています。最初に見学に行った時には、あまりの狭さに「ここはちょっと・・・」と思いましたが、認可保育園の空きがなく、入れてもらえるだけでも有難い、と入所を決めました。そうは言っても、同じ部屋を1歳児から2歳児が共有することで面積基準をクリアし、雨の日の混雑と人いきれは想像以上、お昼寝の時は保育士さんたちが歩く隙間もないほど。保育士さんから時々子供がほかの子供から噛みつかれた、怪我をしたなどの報告も受けますが、親からすれば、報告をそのまま承諾するしかないような立場です。

子供を単に預けるのではなく、親も一緒に育ちながら育てる場所。どんな親も、保育園にはそのような役割を求めています。

ただでさえ保育園に預けることに罪悪感を感じる母親が少なくない中で保育園の質を落とせば、職場復帰をためらう母親が増え、産み控える女性が増えることにつながり、少子化対策にとって逆効果になることは明らかです。

都政のイメージダウンにつながらないためにも、待機児童対策には別の手を検討されることをお勧めいたします。」

「三番目の1歳児が姉の通っている認可保育園に入れなくて、離れた場所にある認証保育所に預けざるを得ない現状にある。二つの保育園は自宅から見て反対方向にあり、毎日、大変な思いをしている。

保育園の民営化で保育士の平均年齢が下がって来ており、保育サービスの質の低下が危惧されている。そこに、子どもの詰め込みという事態になれば、その危惧はさらに現実的なものになる。保育園の第三者評価で、保護者の意見として普遍的に一致していたのは、「保育士の力量にバラツキがある。」というものであった。しかし、評価アンケートの中で、この回答が多く寄せられた質問項目は、その後、行政側の指導によって削除されている。こうした、事なかれ主義の隠蔽体質では、詰め込みによる様々な問題発生すら表面化されない可能性もある。待機児童問題は、施設の拡充と保育士の増員以外に解決の途はない。我々保護者は、詰め込みを要望したことは一度もない。」

「東京都福祉保健局のホームページにて、第一回専門部会の資料等を拝見しましたが、まず、委員の方々の選出基準がわかりません。また、資料も基準緩和ありきの不十分な資料であるという印象を受けました。この資料できちんとした議論ができるとは思えません。

拝見した資料に、東京都の保育計画では、27年4月までに保育サービス利用児童を23万人近くに増やすとありました。単純に、23万人の児童+その家族や周囲の人間を合わせて何十万人の人が関わる重要な議題です。

さらに、日本の将来を考えれば国民全体が関わる重要な課題のはずです。そのような重要

な課題を、この程度の会議で進めてしまうのはあまりにも乱暴ではないでしょうか。保育現場や保護者、子どもの発達や心理についての専門家を交え、十分な検討の上で議論を行ってください。」

「幼少期にどのような環境で時間を過ごすかは、言うまでもなく、その後の当人の情緒に大きな影響を及ぼします。さらに、詰め込みによる影響は、子供たちだけでなく、保育者への心理的負荷にまで及びそれがまた子供に与える影響まで考えると、十分に議論がなされているのでしょうか？ 臨時・期間限定での措置であればまだしも常態化する基準にならないよう再考をお願いできればと思います。」

「この1月から復帰し、現在子供（1歳2ヶ月）は認証園に通っていますが、この4月から認可園に移れないのであれば、仕事はかえて、子供は幼稚園に通わせるつもりでいました。よちよち歩きの時代ならいざ知らず、現在の認証園（園庭なし・ビルの2F）の敷地面積で、小学校にあがるまでの貴重な子供の時間を過ごさせる気に慣れなかったからです。それが、認可園まで認証園レベル、となってしまうたら、広い園を選ぶ選択肢が全くなくなってしまうます。」

大人の都合、立地の都合、予算の都合、ではなく、子どもの最善の利益にかなうような改革をしていただきたいと思います。「こども権利条約」をはじめ数多くの法制などに基づきこどもの権利の擁護を確保してほしいです。いくら企業が育児休業を1年間や3年間補償しても、1歳で応募したら保育園が激戦りになってあぶれてしまうことを危惧し育休を切り上げる人たちが後を絶ちません。保育所の数の整備が先だと思います。また、現在では一人の子どもを大事に育てる傾向があります。その是非はともかく、子どもを安心して預けられないなら仕事に専念できません。質の良い保育士が、こどもに最も適した環境で、子どもの育ちをたすける。そのような保育が求められています。」

「認証ですが、経験豊かな保育士が多数配置されており、子供たちも伸び伸び過ごしていますので、あえて認証に預けています。待機児童解消も結構ですが、保育の質が保たれなければ意味がないと思います。」

③ 小学生以上の子どもを持つ都民も面積基準の緩和には反対です

「日本で最も豊かな税収と人口を誇る自治体が、次世代を担う子どもの保育環境を先進諸国の中でさらに最低のレベルに押し下げる。「日本の首都」として世界に胸をはれる保育政策とは思えません。人間を大切にする、乳幼児からの教育こそが大切という国際的な潮流にも反しています。有識者の方々の、自治体の職員の皆様の良識に再度、期待をいたし

ます。」

「小 1 (7 歳) の息子がいます。杉並区の認可園で 0 歳から 6 年間手厚い保育をしていた
だき、その良さと必要性、そして詰め込みの危険性を充分認識しているつもりです。「の
ど元過ぎれば」ではなく、これからの子ども達の事を考えて、命の危険にさらされる事
無いように。東京都も目先の事だけ考えず子どもの真の幸せを長い目で考えて私たちの払
っている税金を使って頂きたいと切に願います。」

「基準緩和は、認証保育所の「実績」を基にしているのですが、だれが望んで認可園
より低い基準の保育所に入るでしょう？ だれもが認可園を望んでいることを認めるべき
です。認証保育所の実態を知っていますか？

また、ベビーホテルの改善を放置したまま、さらに認可園の基準も引き下げるとは、東
京都が保育所を収容施設として見ているからです。保育所は「子どもが育つ場」です。
環境改善はあっても、引き下げは認められません。」

「子供の詰め込みに反対です。未来の納税者である子どもたちを苦しめないで下さい。
大人だって詰め込まれたらストレスを感じます。子どももストレスを感じるのです。
数字上の話ではなく、子どもを一人の人間として考えて欲しいです。詰め込まれては健全
な発達はありませんから。」

「詰め込みかどうかは、比較できないとわからない。預け先がないからどんなところでも、
詰め込んで安全さえ保証されれば、その先にあるのはどんな未来でしょうか。子どもを
育てる事を誇りに思える世の中でしょうか。将来子どもを持ちたいという夢を打ち砕くよ
うな規制緩和には反対です。今までの基準を維持した形で、保育園を増やすもしくは預け
なくても良い社会制度（育児休業の充実等）や保育園以外の保育制度（幼稚園、保育ママ
の制度・支援等）を考えるべきです。」

「子どもは社会の宝です。乳児・幼児期に心身の発達を保障することが、次世代の日本を
支えることに直結します。東京都が行おうとしていることは今の日本に最低限必要な対策
に逆行しています。どうか、詰め込みは、やめてください。

そして、一度、雨の続く日に保育園を訪問してみてください。現実を見ていただければ、
私たちが無理なお願いをしている訳ではない。ということを理解していただけたと思いま
す。よろしく願いいたします。」

「ゼロ歳児からずっと保育園にはお世話になりました。ハイハイやお座りもできない子と、
すでに歩ける子が混在しているゼロ歳児クラスは、その子に応じたスペースが本当に大切
です。安易な詰め込みは、子どもの成長のみならず、命の安全さえ脅かします。」

「子どもは自分で「NO」と言えません。子どもの命を守る義務のある大人たちが、今、自分たちの責任で、NOを言うべきです。「子どもの健やかな育ちを保障する」根幹を覆し、次代への責任を放棄することのないようにお願いします。」

「子どもには四季の移り変わりが実感できる場所で過ごしてほしい。狭くて大きな窓のない部屋からは、外は見えません。狭い場所でぎすぎすしてストレスをためないでほしい。狭い場所に押し込める代わりに、保育士の人数を今よりもたくさんに増やせるのだろうか。それは無理でしょう。

ストレス→トラブル→親のクレーム→保育の委縮→さまざまな問題を抱える子どもたちが増える→社会の力は落ちる

負の連鎖は容易に想像できます。」

「そもそも保育と教育は営利を目的として成り立たない。それゆえ公共がこれを担うという歴史的経緯がある。それが学童保育の父母会活動に関わって私が得た知識です。

しかし、近年の行政サービスの民営化（業務委託、指定管理者制度）はこれに逆行するものです。再度、保育に対する、100年単位での歴史的判断に立ち戻る必要があると思います。

営利追求というのは民間企業にとっては自然な態度です。そうでなければ株主に責任を追求されてしまう。

設置基準はその態度に歯止めをかけるためにあるもので、よりよい保育というものはこういうものであると明示するためのルールです。これを緩和するためには、「よりよい保育とは何か」について議論を尽くし、国民的理解を得る必要があります。待機児の数値だけをあげて、こうした議論をスルーすることは文化的でも知的な判断でもないでしょう。これを機会に再度、社会でも議会でもよい保育とは何なのかという議論を再開してほしいと思います。」

「私の子ども2人も区立保育園にお世話になりました。恵まれた環境で有難かったです。

保育園は広いようでも実際は家具や遊び道具がいっぱいで、子どものいるスペースは案外少ないです。お天気の良い日は外出もできてストレス発散ができますが、雨天時はずっと部屋の中でストレスがたまります。そのうえ子ども同士の密度が高いと、噛みつきなどの問題行動が増えます。

条件の良い場合だけを考えず、悪い場合でも快適にいられるような基準にしてください。」

「我が子が公立保育園に通っていた15年前から今日に至るまで、公立保育園は着実に詰め込みが進んでいます。保育を必要とするすべての子どもたちに、健やかに育つために必要な環境を保障してください。待機児対策は詰め込みでは解決できません。最低基準を確保

した保育園を必要数作ってください。

保育園でお子さんをなくされたお父さん 3 人の話を聞いたばかりです。規制緩和でなく規制強化を、国連子どもの権利委員会は、日本政府に対して求めています。何とかこの流れを食い止めたいです。」

「待機児童の問題を、保育制度の改悪で切り抜けようとしていることに怒りを感ずります。認可保育園を必要な分つくればいいのです。東京都はそのための財政支援を自治体にしてください。保育園をつくるだけで、働くことができる親、仕事生まれる建設業者、孤立していた親を救い、経済効果もあります。都の予算の使い方を少し変えるだけでできることです。」

「中学生・小学生の 2 人の子どもが、認可保育園にお世話になりました。質の高い保育のお陰で、子どもたちも元気に成長できました。詰め込みの保育園では、質の高い保育を提供するのは困難です。詰め込みでは、長時間そこで過ごす子どもにストレスがかかります！ 今回の東京都の規制緩和には絶対反対です。」

「待機児対策をこどもたちの狭いところへの詰め込みで解決するのはやめてください。こどもはゲージの中で飼われるニワトリではありません、私たちの国を背負ってゆく人間です。こどもは一人一人に人格があり夢を持った人間です。その夢と可能性を大きくのばしてやるのがおとなの責任ではないでしょうか。」

「親や社会が安心して信頼できるような、子どもがのびのびと笑顔で成長できる環境を整備するのが、本当の福祉だと考えています。

保育所は、親が「預ける」場所であるとともに、というよりそれ以前に、子どもが「生活」し「育つ」場所です。そのような場所をきちんと整備していくことにお金を使っていくことは、行政の責任でもあり、社会全体の責任でもあると思います。

そのように考えると、面積基準を引き下げるとは、待機児対策として本末転倒の考え方と覚えてなりません。」

「今は小さな認証保育園に上の子どもを預けています。小さな園でも、マメに外に連れ出したり工夫して保育されてますが、室内の体操の様子などみると、やはり子どものパワーにスペースが追いついていないことを感ずります。基準をゆるめ、手っ取り早く保育人数を増やすより、小規模でもよいので、子どもに十分なスペースを与えられる園を増やす方向に進んでほしいと思います。」

④ これから保育園を利用したい都民も面積基準緩和に反対です

「現在 4 ヶ月の子どもを持つ母です。核家族の私達にとって、子どもを安心して預けられる場所がなければ、母親である私の社会復帰は考えられません。いちばん大切なものは子どもの安全だと、当然のように思うのですが、子育てに関わっていない男性にはわからないのでしょうね。」

「子供は宝です。ぜひ他の無駄を切り詰め将来ある子供に投資をしてください。これから働く女性は増え、保育園はもっとも必要になります。新しく保育園を設立し雇用の増加と預ける両親の安心を生み出してください。よろしくお願いします。」

「まだ歩けずにハイハイしている赤ちゃん、よちよち歩き始めた 1 才児、今以上に狭くしたらケガが増える確率は上がると思います。それを阻止するための保育士の気苦労もかなり大変なことになると想像します。何卒良くお考えになってくださいませ。安心して預けられる場所にしてほしいです。」

「大人のデスクワークとは違う。

子どもは、体は小さくても、起きている間ずっと小さいからだからあふれ有り余る体力で、所せましと動き回る。動き回ることができないと、つたい歩きしかできない乳児でさえもあきらかにストレスをためる。

大人が通勤電車で 30 分ずし詰めになるストレスを思えば、少し勝手に動けば他の子にぶつかるといようなスペースで毎日 10 時間近く過ごすことが精神に良くないことは誰の目にもあきらか。保育士の心の余裕も無くなり、子どもへの悪影響は加速する。

充実した保育環境を準備するための経過措置としてごく限られた短期間という以外に、詰め込みは許されない。

経済状況は様々であれ、保育所を選択する家庭の子どもは劣悪な環境で育つことも仕方がないという政治姿勢なのか？子どもを預けてでも働くという選択は道楽のためではない。

「保育園育ちはかわいそう」という考えは世の中から無くならないのか。東京都だからこそ簡単に基準を下げないでほしい。」

「待機児童緩和は重要課題ですが、既存の保育環境を悪化させるような詰め込み、面積減少、定員増には断固反対です。現状をまず見て頂きたいです。ご自分のお子さんが 8 時間過ごすスペースとして考える必要があると思います。また専門の方々がご検討とのこと、詰め込みによる子供たちへの影響を十分考慮すべきです。特に精神面（ストレス）、安全面、感染症の問題、また定員増により保育士の仕事量が増えれば、保育内容の縮小、しいては早期退職者増加も招くことが予想されます。言葉は悪いですが、悪いものをたくさん

作る中国のような国を目指すのか、しっかり考えるべきです。

審議会の方々には、自分の子どもが、もしくは孫が、狭くて環境の悪いところに押し込められている姿を具体的にイメージしていただきたいものです。自分の大切な子どもや孫を、本当にそこに安心して長時間預けられるか、預けたいと思えるか。それを基準に審議していただきたいです。数さえ満たして待機児童減らせばいいだろ、という考えでは、いずれ施策は破綻するのが見えています。審議会の皆様には十分なお検討をお願いします。」

⑤ 将来、子どもを持ちたい若い都民も面積基準の緩和に反対です

「施設基準を今以上に低下させることには断固、反対です。

限られた空間の中で一日過ごす子どもたちのことを考えて欲しいです。設置基準の緩和を訴える前に、そのことが今後の子どもたちの成長にどう影響するかを考えてから、行政は動くべきです。待機児童緩和対策だけを念頭に設置基準を変えることは非常に危険だと考えます。」

「子どもを活発にのびのびと育てる環境を望みます。詰め込みには反対です。」

「アピールに賛同します。」

⑥ お子さんがいない都民も子どもの詰め込みに反対です

「会社で人事の仕事をしていますが、女性活用ということがこれだけ世の中で言われているながら、多くのこどもを持つ女性社員が保育園にこどもを預けることに大変苦労されていると感じています。待機児童を減らして希望する人がこどもを保育園に預けられることは、女性活用、女性の就労継続を可能にするためにもぜひ必要なことですが、同時に私達の社会の将来を担うこどもたちの育成には配慮と投資が必要と考えます。保育所の面積基準の緩和といった方法ではなく、よりこどもたちの発達と育成に配慮をし、親が安心してこどもを預けられる施設を増やし、こどもの育成と女性の就労を支援するとともに、優良な保育所を公的に支援することで保育を産業として発達させ、また保育の分野での雇用も拡大するといった方法が長期的に社会のためになるのではないかと考えます。

働きやすい社会の実現のため、保育所を充実させる必要性は当然のこと。行政の怠慢を許してはならない。」

「児童福祉法に基づく保育所など児童福祉施設の最低基準は、子どもの身体的、精神のおよび社会的な発達に必要な生活水準の確保を国が保障するものであり、憲法第25条で規

定されている基本的人権の保障と同じである。東京都はこの子どもに関する基本的人権を侵害しようとしており、絶対に看過できない。」

「「食寝分離」は現在わたしたちが使っている、LDKにもつながる生活の質を守る大切な考え方だと思います。ふだんわれわれが当たり前に使っている概念も先人が苦勞して手に入れたものであることを忘れてはならないと思います。チリの鉱山の事故でも「食寝分離」や「単位空間」の考え方があったからこそ生き残ることができたと聞いたことがあります。実証的に検証した 4.11 m²/人という面積に合わせ、世界に誇れる質を目指すことが行政の仕事であり、最低基準をさらに下げようとする動きは絶対反対です。」

「東京に来た時に、住む場所を選ぶのに子どもが幼少期を過ごす家、過ごすまち、という点を最優先にしました。ひとがあつまる東京は、子どもを住まわせる場所もたくさんえらべるまちであってほしいと思います。

大人の都合で進んでいったら、百年後二百年後の東京はきっと衰退しています。それくらいあとのひとたちに責任を持つひとが地方行政にあたってほしいと思います。」

「こどもが事故死する数が増えます。保育士さんも過勞死するでしょう。これがわかっているのにこの政策をすすめる人は鬼だ。」

⑦ 元都内の保育園保護者も面積基準緩和に反対しています

「半年前まで東京都台東区の認可保育園を利用していました。先生方は大変良くして下さり、安心して働くことができましたが、当時から園庭、園内の狭さに対しては、子どもの発達上懸念していました。東京都が面積基準を緩和すれば、首都圏の周辺自治体も「右へならえ」となりかねません。東京都の置かれた影響力の大きさを自覚し、くれぐれも慎重な対応を希望いたします。」

「以前東京で子育てをし、幾つもの保育施設を見学しました。当時にして、ここに通わせるしかないのかという施設が多くある中、さらに、ただ預けるだけの施設が増えても意味はありません。どうか、子供が「普通に」生活できる環境をお願いします。ただそれだけです!!!」

⑧ 都外の認可園保護者も都に保育の質維持を求めています

「保育スペースを狭くすることは、保育の質が落ちるということ。私の友達は、狭い認証

の園で、赤ちゃんから小学校に入る直前の子まで芋洗い状態で保育されているのに恐怖を覚え、でもその場所を選択しなければ自分が働けないので小さい子供を預けています。ここでは、ケガや子供同士のトラブルが絶えないそうです。親に恐怖を与え、子供の健全な成長を妨げるようなことが本当の解決なのでしょうか？保育所は、名が示すとおり、子供を育む場所です。子供が健やかに育むことを阻むことは、親にも子供にもいいわけがありません。反対します。」

「子どもの育ちを大切にしたい、保育環境を整備してください！私たちはただ「預かってほしい」のではなく、「保育」してほしいのです。十分に遊ばず、目もかけてもらえず、手もかけてもらえず。そんな状況は絶対に困ります。

最低基準の広さで保育されている現場を見たことがありますか？大人は勿論、子どもだって息がつまり、これでは様々なトラブルが発生するときと思うはずですよ。

最低基準の緩和という安易な方法で、待機児童を見た目上減らしても何の意味もないのです。自分の子供を、孫をその環境で育てたいか否か、自分のこととしてどうぞ考えてください。」

「長男が1歳のとき（12～3年前）、あの「ちびっこ園」に預けていました。

保育士は3人。子どもたちは0～5歳児、総勢30名ほど。

よちよち歩けるようになった息子は、毎日、3～5歳児の幼児の部屋でイスに座らされっぱなしでした。大きい子どもたちが走り回るので危ないからです。もちろん、自由に動けない息子は毎日大泣きでした。食事は、月齢に合っているものを出してくれません。5歳児と同じ食事が食べられないため、野菜スープだけしか与えられず、1ヶ月でやせ細りました。

おむつも当然かえてはもらえません。おむつかぶれがひどく、泣き叫び、抱っこすらできない状況。毎日、朝も帰ってくる時も大泣きの日々でした。

その後、ちびっこ園は突然閉園になったので、認可園に移してもらいました。そちらでは毎日ニコニコ登園。安心して預けることができたので先生方に感謝しています。

現在子どもは3人。一番下（現在2ヶ月）はこれから保育園入園の希望の申請を出しますが、待機児童が多く、またいつ入園できるかわかりません。（ちなみに、2番目の子どもは申請から2年目で認可園に入れました）仕事復帰時に間に合わない可能性も高いので、認可園以外に預ける方法を考えなくてははいけません。自分の経験上、保育園を選ぶ基準がだんだんと分かってきましたが、実際、預けてみないと分からないことだらけです。

子どもの将来を考え、安心、安全に保育園に通える環境を望みます。（神奈川県茅ヶ崎市在住・3児の母）」

「待機児童歴長男2年、次男2年です。子どもの多い今だけ、弾力的に大きい園が子どもを少し多くとる、などは理解できます。しかし、根本的に基準を変えてしまうというのは

反対です。庭のない無認可園から庭のある認可園に変わってから子どもの体が大きく変わったのを実感しています。思い切り走れる場所が家でも家のまわりでも少ない中、これ以上、子どもの場所を小さくしないでほしい。」

「子どもの心身が丈夫にのびのびと育つためには面積を広くして欲しいぐらい。緩和して狭くなるのは絶対に反対。」

「詰め込みによって解消するのではなく、保育園の増設、拡大で解消できないのでしょうか？ 保育園を作ることは将来の投資であり、少子化対策だと思うのですが。詰め込みについて、もう一度、考え直してみてください。」

「保育園に関係のある人の状況をすべて改善すべし。子供手当の予算をこちらにあてるべし。詰め込んだ子供たちの成長、将来に責任が持てますか？」

「ナショナルミニマムは、国の責任で守るもの。私たちの仲間である「こども」の声を、代弁できるのは、私たち。最低基準は、こどもの命を守る砦です。基準緩和絶対反対！」

「2011年2月から無認可園に預ける予定でしたが、4月からの認可保育園に入所することに変更しました。無認可園は初日に預ける際に泣いている1才児をあやしている先生が「この子静かになんないかしら！」とイラッとしながらつぶやくのを見て、保護者（しかも入園初日の）の前で発言する内容としては余裕の無さを感じたのと同時に保育の質が不安であり、不適切な預け先と判断したためです。非常に狭い居住スペースだったことも、判断要因のひとつでした。」

「子どもを育てる環境を整えることは、日本の未来への投資です。次世代の活力なくして、日本の未来がよくなるわけがありません。子どもに対する対策を第一に優先してください。憲法25条の健康的に生きていく権利の実行をおねがいたします。」

「保育園であればどこでもいいわけではないのです。「安心して預けられる」保育園を親子共々切望しているのです。規制緩和によって「安心して預けられる」保育園は増えるのでしょうか？ 保育園での事故死のニュースを聞くたびに、他人事ではないという思いを強くしています。保育条件を切り下げた待機児対策はやめて、もっともっと別な視点から対策を考えて下さい。親も子ども先生も豊かに成長できる保育環境を望みます。」

「一人3点3平米の中には、保育する保育士さんも入っています。詰め込みではなく、潜在的な待機児童に対応するためにも、保育園の新設をお願いします。待機児童の解消は、福祉的な面だけでなく、潜在的な労働力である女性の活用、さらに、児童虐待問題の防止

にもつながります。抜本的な解決を。

現在三歳の娘を保育園に預けてフルタイムで働いています。娘は一歳から保育園に。日本の女性は保育園に赤ちゃんを預けて働くことに、まだまだ勇気がいります。だからこそ子供がいる環境が気になります。詰め込みはノーです。子供が伸び伸びできない&保育園負担増で安全性に不安なら、働かないほうが良いと考えます。またそう旦那に言われる女性が増えるだけです。」

「子どもは、生まれてから育つ過程があって、その結果、大人になります。育ちを大事にされるか、適当にされるかは、大人たちしか決められません。将来どんな社会にしたいのか。どんな社会にみんなが暮らしたいか。みんなが幸せに暮らすには、一人ひとりが小さいころから尊重して育てられ、自分を好きになり、自分を育ててくれた人や社会を好きになる、ということが大事です。今より基準を下げては、いけません。妥協はだめです。将来のためにも。」

「東京都民ではありませんが、裕福な都の基準の改悪は他のもっと貧しい自治体の基準に必ず影響を与えたいと思います。ここはぜひ踏ん張っていただきたい。」

「詰め込みで保育の質が落ちれば安心して働けなくなります。東京都だけの問題ではなく、容易に飛び火が予想される近県としても対岸の火事ではありません。緩和の撤回を強く望みます。」

「子供達の健全な発育は、社会を維持する上で不可欠だと思います。詰め込みの問題は以前から報道で取り上げられていましたが、議員さん方は一体、育児と言うものをどのようにとらえているのでしょうか。」

「子供増えないのは国の責任です。保育園整備と出生率は正比例と感じてます。かならず将来ツケが回ってきます。いますぐ、始めるべき。」

⑨ 都外に住む小学生以上のお子さんを持つ保護者も同様です

「待機児全国一の横浜市民です。(保育運動に係わっている保護者 OB)
横浜市ではすでに、実態として2.46㎡という詰め込み状態が常態化しています。私の会社の女子社員がまもなく出産で1年間の育休明けに認可を希望していますが、育休明けでも難しい位に待機児問題が深刻化しています。横浜市も中田前市長の頃とは違い、保育所の増設に力を入れるようになってきましたが時すでに遅し。の感があります。株運営の認可の不正もかなりある状況下ですが、事業所内保育所の増設、都市公園の有効

活用等、保育以外の法の弾力運用を本格的に考えないといけない時期にきています。」

「子どもたちには豊かに育つ権利があります。ギューギューに詰め込まれた保育園では、豊かどころか、命も守られないと思います。最低基準緩和には絶対に反対！」

「子どもたちの健やかな成長を願ってやみません。スペースを増やすだけの施策には、反対です。笑顔と感謝のあふれる世の中にしていきたいものです。」

「どんな環境でも、預かってくれさえすればいい、と思う保護者はどこにもいないと思います。少しでも「安心・安全」が確保されたところに、かわいいわが子を預かって欲しいからこそ、保護者もいろいろ悩み、迷うのです。

都内の保育園が詰め込みをしてしまったら、それに習え！とする地方都市が増えてしまいます。わが子は卒園してしまいましたが、これからのお子さんや保護者のために、安心・安全な預かり先を確保してください。

詰め込みや保育士不足などによる事件・事故が起こって悲しい思いをする保護者がいませんように。」

「『子どもの詰め込みに NO という緊急アピール』に賛同します。

保育園は子どもたちにとっての生活の場。子どもたちの健全な発達のためにこれ以上保育の質を下げることは絶対に反対です。子どもたちはモノではありません。」

「◇始めに。1歳未満は子ども3人に保育士1人だが、1歳になると6人に1人となる。1歳児は、伝い・一人歩きが活発になり好奇心旺盛、しかしまだ視野が狭い上に歩行不安定・こけやすい。そのような6人を保育士1人でみる事はすでに危険、災害時非難などさらに危険。

◇保育所の面積基準が緩和されるとどうなるか？

◆子どもの数だけでなく、大人(保育士)、ベッドや布団、テーブルセットの数も増えるため、空間の狭まり方が想像以上に大きい。

◆子どもを見守る保育士が絶対的に不足。特に1歳時は、空間に余裕がなくなることで、全ての行動を安全安心に見る事が物理的に不可能。命に直結の問題。

◆子への愛情以前の問題で、有事には命の危険。」

⑩ 都外に住むこれから保育園を利用する人も同様です

「保育園を改装した乳幼児センターによく遊びに行きますが、10組も部屋にいるとお互いがぶつかりそうになったりで怖いのが正直なところ。生きるためには「余裕」が必要

です。効率化が進み余裕を切り捨てた結果、様々の社会問題が起きてきているのはご承知のとおりです。

空間の余裕を減らし、働く人の心の余裕を減らし、子どもたちの自由を減らしていくことがより良い社会につながるとは自分には思えません。子どもたちには余裕あるなかで育てほしい。親として、この社会に生きる人間としての切なる願いです。

東京の決定は全国に波及します。どうか、日本全国の子どもたちの将来を余裕のないものにしないでください。お願いいたします。」

「小学 2 年、保育園年少、0 歳、三女の母です。待機児の多い自治体に住み、職業柄認可保育所への入所が難しいため、ここ数年は幼稚園と認証保育所のダブル保育等にて綱渡りしています。働く親としては認可園にはもっと門戸を拡げて欲しい、でもその保育環境が悪化して欲しくは無い、思いが二律背反する点は否めません。しかし「詰め込み」には大きな声を以って NO と言いたい。自分の身に置き換えて想像すればわかること。子どもの尊厳に関わることと思います。」

⑪ 将来子どもを持ちたい都外の若者も詰め込みに反対です

「待機児が存在するのは、自治体の責任が問われるべきです。それを規制緩和で詰め込んで待機児を解消しようというのは、児童福祉法違反です。今現在の 20～25 パーセントまでの緩和のために、全国的に死亡事故が増えている事実を認識した上で緩和するのでしょうか。だとすれば、自治体が子どもの命を軽視していると言わざるをえません。詰め込んだ結果、仮に事故が起きたとすれば、それは施設の責任ではなく、明らかに自治体の責任になりますよ。どうか、子どもの命を最優先に考えてください。

子どもの事故の賠償や社会的責任を負うよりも、先進的に保育園を整備して待機児を解消する方法を考えてください。命より優先するものがこの世の中にはないのですから。」

「子どもが育つ環境は絶対に大人の都合で悪くすべきではない。子どもを宝だと思えば、今逆に沢山の投資をすべきだと思う。これ以上大人の都合に子どもを巻き込まないでください。」

⑫ 現在はお子さんがいらっしゃらない都外の方も 質の高い保育を求めています

「子どもの詰め込み」は NO です。私達は昨年 4 月に息子を保育所で亡くしました。

「認可外保育施設指導監督基準」を遵守せずに事故が起きています。子どもを詰め込むこ

とでのリスクを把握しているのでしょうか？ 子どもの命を最優先に考えて下さい。」

「子どもの育ちを保障するには、適切な環境が必要です。最低限のパーソナル・スペースの確保が不可欠です。川村学園女子大学教育学部幼児教育学科教員」

「富山の研修会では先生のわかりやすいご講演ありがとうございました。子どもは環境を通して育つ……。子どもに良い環境を提供するのは、大人の責任。行政の責務です。良い人間としての育ちを今ささえなければ、日本の将来は真っ暗です。狭いところでは、心もいらいらします、やりたいことの意欲も湧きません。子どもたちの生活環境より人数をは、まさに暴挙です。面積基準は長い歴史の中で、子どもの生活空間として最低保障の場として導きだされた面積です。」

「長崎の伊藤です。緊急アピールに賛同させて頂きたくメールさせて頂きました。保育環境に対しての軽視、子どもに対しての軽視、子どもの育ちに対しての軽視。今の日本の大人の子供達に懸ける想いとはどの程度なのかと勝手に思います。保育園を考える親の会の皆さん頑張って下さい！ 遠方より応援いたしております。」